

第1・2学年 生活科 学習指導案

屋久島町立永田小学校
教諭 吉 富 祐 子

1 単元名 「永田のすてきを見つけよう」

2 単元の目標

- 自分たちが住んでいる地域や人々の様子を理解し、学習したことを発信できるように、まとめることができる。 (知識及び技能)
- 自分たちが生活している地域には、どんな人々がいて、どんな場所なのだろうかという課題を設定し、自分たちにできることを考えたり、考えたことを伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 自分たちの地域には、素晴らしい自然があり、人々がいることに気づき、より地域や人々のことを知りたいという意識をもち、意欲的に活動に参加したり、学んだことをまとめたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元「永田のすてきを見つけよう」は、世界自然遺産の島、屋久島(永田)の魅力について、体験活動を通して気付かせ、地域の人々が守っていることを根拠に、現在及び将来にわたって集落として持続していけるよう、郷土愛を育むことを目指す単元である。

また、保護者や地域の方に発表したり、ICTを活用して他校と交流したりすることで、より多くの方に自分たちの住む地域の魅力を伝える機会を確保しながら、相手意識をもって活動することができるようになるよさがある。情報活用収集能力や活用能力の育成にもつなげる学習に位置づけられる。

(2) 児童観

本学級は1・2年複式の学級で、1年生1名、2年生2名の計3名の児童が在籍している。3名のうち1名は生まれた時から地域に住み本校に入学してきた児童、1名は、他県より移住してきて屋久島町内の別集落で1年過ごした後、本校に入学してきた児童、山海留学生として他県から転入してきた児童で、地域での生活時間も経験も様々である。これまでに生活科の「学校探検」で、校内の先生や上級生など学校内の人との関わりがあることに気付いている。また、「塩づくり体験」や「いかだレース」、「うみがめのふ化観察・放流」を全校で行うことで、自分たちが暮らす地域には川や海があることを知っている。また、行事には地域の方が応援に来てくださったり、教えに来てくださったりする地域の方がいることにも気付くことができることから、いろいろな人に興味をもつこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、学校にはどんな友達や先生がいるか、どんな場所があるかを見つける学校探検を行う。学校で生活するためには、いろいろな人との関わりがあることに気付かせ、楽しく学校生活を送るにはどうすればよいかという課題をつかませたい。

次に、全校で行う「塩づくり体験」や「いかだレース」を通して、地域にはきれいな川や海があることに気付かせ、さらには、そのきれいな川や海に関わる人々がいることに気付かせる。

そして、他教科との関連も明確にし、生活科で実施する町探検から、普段の生活では。

さらには、これまでの活動を通して、他の集落とも比較し、自分たちの住む集落の良さに気づき、また、他の地域にも良さがあることに気付かせる。さらには、分かったことをまとめ、実際に保護者や地域の人に伝えることで、地域のことを考え、地域のために活動できたという自信をもたせ、今後の活動につなげていくようにする。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

- ・ 多様性・・・永田にはこれからも大切にしていきたい人やものがある。
- ・ 有限性・・・長く大切に守られてきたものや風景もいつかはなくなってしまうかもしれない。
- ・ 責任性・・・未来に引き継いでいくのは、ここに住む自分たちの使命である。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・ つながりを尊重する態度

いろいろな人が永田を大切にしていきたいという思いのもとに、守られてきているものが町の人々のつながりを作っていること知り、地域の人とのつながりをもつ。

・ 進んで参加する態度

永田にはいろいろなものがあることを知り、これからもいろいろなことを知るために地域の行事に積極的に参加し、地域の人やものを知ろうとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

・ 世代間の公正

地域の人たちが受け継いできたものは、次の世代へきちんと引き継がなければならない。

・ 人権・文化を尊重する

人々の思いから文化が生まれていることを感じて、その文化を大切にしていきたい。

・達成が期待される SDGs

- 11 住みつけられるまちづくりを
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 自分たちが住む地域には、自分たちを支えてくれる人々がいることを理解している。 ② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関連づけながらまとめる技能を身に付けている。	① 学校や地域にはどのような場所があって、そこに携わる人々がどのようなことをしているかを調べたり、地域の人々の思いを聞いたりすることができる。 ② 自分の住む集落と校外学習で出かける集落とをくらべ、それぞれの良さについて考えることができる。 ③ 学んだことや考えたことをカードにまとめることができる。	① 地域のよさを見つけるといった目的意識をもち、意欲的に活動しようとしている。 ② 学んだことから、自分にできることを模索しようとしている。 ③ 地域の人と私たちの生活のつながりを保護者や地域の人に発信しようとしている。

5 単元の指導計画(全20時間)

過程	主な学習活動	教師の関わり	○ 評価 ・ 備考
つかむ	1 学校探検をし、友達や先生、上級生との関わりから、自分たちの生活を支えてくれている人がいることに気づき、課題を発見する。	・写真や動画を提示する。 ・関連マップや関連図を用いながら課題をつなげさせる。	(ウ)① (主体的) (イ)① (思・判・表)
見通す	・ 私たちが住む地域にはどんな場所があるのだろうか。		
調べる	2 「永田の町探検」 ・どのような場所があるのか。 ・どのような人が関わっているのか。 3 「宮之浦の町探検」 ・どのような場所があるのか。 ・私たちが住む地域と同じところや違うところは何か。	・3地区に分け、各方面を探検し、元々知っている場所の確認や新しい場所の発見ができるようにする。 ・私たちが住む町と同じところや違うところが気付けるよう、視覚・聴覚を使って調べるようにさせる。	(イ)① (思・判・表) (イ)② (思・判・表)
	4 「SDGsゲットザポイント」 ・屋久島 ver.を実施し、屋久島の産業を知る。 ・屋久島を持続可能な場所にするにはどうすればよいか。	・ゲームを通して、資源には限りがあることに気付かせる。 ・友達と協力して活動できるようにし、自分たちの住む島の素晴らしさに気付くことができるようにする。	(ウ)② (主体的) (イ)②
	5 地域のおすすめの場所を見つける。 ・どんな場所があったかな。 ・どこをおすすめの場所にしようかな。そのわけは、○○だからだ。	・タブレットの操作方法や、ルールについて指導する。 ・長期休業中も継続して調査できるように、方法の修正をさせ、情報を提供する。	(思・判・表) (ウ)①
まとめる	6 学習したことをまとめる。		(イ)③ (思・判・表)
	7 活動の振り返りをする。	・発表相手に伝わりやすい表現や構成を工夫する。	(ウ)③ (主体的)

発信する	8 取組を発表する。	・発表の方法や手順を主体的に思考させる。 ・保護者だけでなく、地域の方にもお知らせして聞きに来てもらうようにする。	(ア)② (知・技) (イ)② (思・判・表)
生かす	9 学習を通して気付いたことや自分の生き方についてキャリアパスポートに記入する。	・他教科・領域との関連を図り、継続的な指導に努める。 ・他学年に周知する。	(ア)① (知・技) (イ)① (思・判・表)

【実際】

1学期

- ・ 1学期は、学校探検を行った。
 - 児童の感想には、「体育館の壁にある扉を開けると、鏡だった。」「理科室にはたくさん道具があった。」など、細かい所まで見つけることができていた。
- ・ 2学期は、「町探検」に出かけることを伝え、学校だけでなく、地域には、どのような場所があり、そこにはどのような人がいるかを知る学習をするという予告をし、興味をもたせる。

2学期

- ・ 「SDGsゲットザポイント」
 - 屋久島町 ESD アドバイザーを招き、ボードゲームを行った。このゲームは、屋久島の資源を使いながら、私たちの生活に関するものを作り、考えて資源を使うことの大切さに気付かせることができる。最初は、個人の利益しか考えていなかった子供たちも、グループ戦になると、よく考えながらゲームを行うようになっていった。
- ・ 「町探検」
 - 学校から30分離れた宮之浦町(屋久島町内では、いろいろな店があるところ)の町探検を行った。普段、買い物等で出かけることはあるが、小さなお店には入ったことがないようで、自分たちが住むところと違い、店の数や交通量など違うことに気付くことができていた。
 - 自分たちの住む町の探検では、郵便局・役場の出張所・診療所・商店などで話を聞くことができた。

3学期(予定)

- ・ 宮之浦と永田で探検したことから、似ているところ・違うところを出し合い、それぞれに良さがあることに気付く。
- ・ お年寄りとの交流会が計画されており、そこで永田の良いところを聞く。
- ・ 地域ではいろいろな方に出会えた1年だったことから、この地域の方々も自分たちの生活を支えていることに気付く。
- ・ 自分たちの住む永田のすてきな所を保護者・地域の方に向けて発表する。

【成果と課題】

成果 ○ 「学校探検」から、「自分たちの住む町探検」、「少し離れた町探検」を組み、その間で、屋久島の資源を考えるボードゲームを実施したことで、屋久島について関心をもたせることができた。年間を通した大きな単元として捉えることができ、つながりのある学習に組み立てることができた。また今後3・

4年生の学習(川や海の水のつながり)につながる予定である。

- 生活科の学習の最後の単元で、児童が自分の成長を実感し、その成長にはいろいろな人のおかげであることに気付かせる内容となっているが、地域の人々も児童の成長に関わっていることに気付かせることができる考える。
- 学習を組み立てる中で、教師が地域に目を向け、その良さに気付くことができた。また、地域の人ともつながることができた。

課題 ● 完全複式の学校であるため、この計画は隔年で実施することになる。また、職員の数も少なく、勤務年数も短いので、人材リストや学習計画をしっかりと作成していき、教師が入れ替わった後も、持続できるように今後も計画していく必要がある。

現在の学年終了時に目指す姿

自分たちが住む地域には素晴らしい自然やそこに関わる人々がいることに気づき、自分たちも地域の一人として体験活動に積極的に取り組み、自分たちにできることを考えることができる。



自分たちが住む地域には、どんな場所があるのかな。
どんなことを教えてもらっているのかな。

生活科「永田のすてきを見つけよう」

○主に養いたい ESD の資質・能力
つながりを尊重する態度
いろいろな人が永田を大切にしていきたいという思いのもとに、守られてきているものが町の人々のつながりを作っていることを知り、地域の人とのつながりをもつ。
○主に育てたい ESD の価値観
世代間の公正
地域の人たちが受け継いできたものは、次の世代へきちんと引き継がなければならない。

私たちの地域でも同じ風景を見ることが出来るよ。
私たちの地域にはそんな行事があるのかな。

道徳科「まちたんけん」(光文書院)

自分たちの住んでいる郷土には、豊かな自然や人々の支え合いという文化など、すばらしさがあることが分かり、自分の住んでいる郷土のよいところに愛着を感じることができるようになる。また、自分の住んでいる郷土のよさを大切にすると共に、それに親しみをもって生活していこうとする態度を育てる。

2年 国語科「夏・秋・冬がいっぱい」(光村図書)

季節ごとの風習や行事、気候や植物などが紹介されており、自分たちの生活を振り返り、経験を思い出し、発表する学習である。自分たちが住む地域にも季節があり、その季節に見られる植物や行事、文化があることに気づかせたい。

音楽科「音のスケッチ」

普段、何気なく耳にしている、生活の中の音を意識して聴き、生活音だけでなく、自然の音にも耳を傾け、住んでいる地域の特徴などにも目を向けさせ、音から自分たちの住む集落の良さに気付かせる。

素敵な場所を紹介するにはどう書けばよいか。
他にはどんな音が聞こえてくるかな。

国語科 1年「いいこといっぱい、一年生」

2年「楽しかったよ、二年生」

生活科で学習したことを発表するために、新しく学んだことを作文したり、絵に描いたりすることで良さが伝えられるようにする。